



HIROSHIMA UNIVERSITY

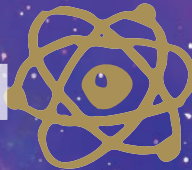
GLOBAL SCIENCE CAMPUS

GSC HIROSHIMA



新しいことに挑戦したい

追究心・探究心を持っている or 持ちたい



強みが欲しい



意見が言えるようになりたい



好奇心旺盛

積極的になりたい

O₂



役に立ちたい



GSC 広島

— 2020年度 活動報告書 —



もくじ

「持続可能な発展を導く科学技術人材育成コンソーシアム GSC 広島」の概要	3
～世界を舞台とした教育プログラムと地域の産学官連携による人材育成～	
育成する人材像	3
企画の全体像と特徴	3
プログラムの全体像	4
教育プログラム	4
スケジュール	5
受講生募集状況・選抜状況	5
受講生の参加実績	6
各ステージ紹介	8
ホップステージ	8
ステップステージ	10
ジャンプステージ	14
受講生の研究活動と研究発表	15
国際学会発表	15
研究成果発表	16



「持続可能な発展を導く科学技術人材育成コンソーシアム GSC 広島」の概要 ～世界を舞台とした教育プログラムと地域の産学官連携による人材育成～

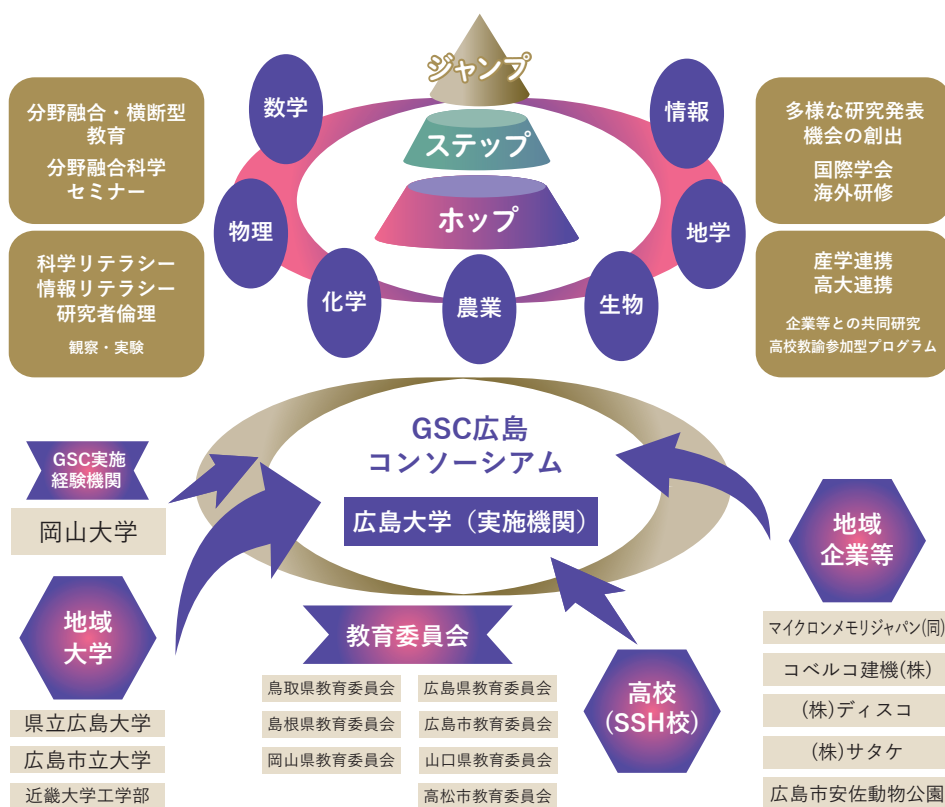
育成する人材像

GSC 広島では、科学好きで、将来科学を通じて持続可能な社会の構築に貢献したい生徒を受け入れ、創造性・探究心・主体性・チャレンジ精神を涵養することで、「持続可能な発展を導く科学技術人材」を育成することを最終的な目標としています。

GSC 広島で提供するプログラムでは、①グローバル社会が抱える課題や将来の課題に、能力を最大限発揮して挑戦し続ける生徒、②研究分野に関する高い研究能力と専門技術を有する生徒、③関連分野の理解力と、それらを融合・連携させる応用力、実践力、新たな課題発見能力を有する生徒、④多様な価値観を持つ他者への発信力、英語の意思疎通能力を基盤に研究内容の議論ができる生徒を育成します。

本プログラムの受講を通じ、大学進学時には将来像と明確な目標をもち、将来にわたり「持続可能な発展を導く科学技術人材」を志す高校生の育成を目指します。

企画の全体像と特徴



- ★ GSC 広島では、教育委員会（広島県、広島市、山口県、高松市、鳥取県、島根県、岡山県）、大学（広島大学、岡山大学、県立広島大学、広島市立大学、近畿大学工学部）、学術組織及び地域企業とのコンソーシアムを組織し活動しています。
また、オーストラリア・Flinders University やタイの Kamnoetvidya Science Academy (KVIS) 高校、国際学会等との連携により、海外の科学研究者との科学交流や活動を行うことができるプログラムとなっています。
- ★ 受講生はホップステージ（300人）、ステップステージ（60人）、ジャンプステージ（15人）の3つのステージにおいて、それぞれの育てたい人材像（DP：ディプロマ・ポリシー）を目指し活動を行います。
- ★ GSC 広島では、小中学生のときから研究を続けている生徒はもちろんのこと、これから科学研究を始めたいと強く希望する意欲ある生徒を広く募集しています。最初のホップステージに関しては、希望した生徒全員が参加することが可能です。
- ★ GSC 広島では、一つの科学分野にとらわれることなく、グローバルな世界で活躍する自分の姿を想像できるようなプログラムの提供を目指しています。セミナーでは国際的に活躍されている研究者だけでなく、企業の方によるセミナーなど、科学セミナーの枠を超えた受講生自身がこれからの研究者としてキャリアを考えることができる内容を盛り込んでいます。



プログラムの全体像

教育プログラム

ホップステージ

(求める人材像)

科学好きで将来科学を通じて持続可能な社会の構築に貢献したい生徒

(達成目標)

科学の学び方と研究者としてそのルールを理解し、研究に対して関心・態度・意欲を持って計画できる

ステップステージ

(求める人材像)

ホップステージの到達目標に加え、希望する分野以外に対しても強い関心を持ち、高校の学習範囲を超えた内容や、英語活用、実験・情報科学等、研究を進めるにあたってのスキルアップに前向きに挑戦する生徒

(達成目標)

- ・複数の分野にまたがる学際的な領域に対する関心を基盤に、社会課題を意識した研究計画を立案できる
- ・研究過程について適切にまとめ、英語ポスターとして発表できる
- ・発表に際して分野にとらわれることなく、常に活発な学問的関心を抱き、議論できる

ジャンプステージ

(求める人材像)

ステップステージの到達目標に加え、多様性を育む国際社会の構築に貢献し、多様性に対する深い理解と、英語によるコミュニケーション能力を身につける意欲のある生徒

(達成目標)

- ・グローバル社会が抱える課題や将来の課題に、能力を最大限発揮してチャレンジし続ける
- ・研究分野に関する高い研究能力と専門技術を有する
- ・関連する分野の理解力と、それらを融合・連携させる応用力、実践力及び新たな課題発見能力を有する
- ・多様な価値観を持つ他者への情報発信力、英語によるコミュニケーション能力を基盤に研究内容の議論ができる

ジャンプステージ

ステップステージ

ホップステージ

- ・少人数ラボ
- ・海外研修
- ・国際学会発表
- ・異分野交流ワークショップ
- ・分野合同科学セミナー
- ・分野別科学セミナー
- ・英語ポスター発表指導
- ・英語サロン
- ・異分野融合シンポジウム
- ・科学リテラシー講座
- ・研究者倫理講座
- ・科学講演会

数学

物理

化学

農業

生物

地学

情報

科学好きで将来科学を通じて持続可能な社会の構築に貢献したい生徒

※持続可能な社会：地球環境や自然環境が適切に保存され、人類の活動が将来にわたって発展させながら継続していける社会

スケジュール

初年度	4月	募集（約300人）						
	5月	ホップ ステージ	科学リテラシー	研究者倫理	科学講演会			
	6月							
	7月	一次選抜（約60人）						
	8月	ステップ ステージ	情報リテラシー	英語ポスター指導	英語サロン*	分野合同科学セミナー		
	9月					分野別科学セミナー		
	10月					選択課題別特別プログラム		
	11月							
	12月	二次選抜（約15人）						
	1月	ジャンプ ステージ	研究活動			(個別・学会発表) (個別・論文投稿)		
	2月							
3月								
4月								
5月								
6月								
7月								
8月								
9月	海外研修*						異分野ワークショップ	
10月								
11月	全国受講生研究発表会						国際学会発表	
12月	研究まとめ							
1月								
2月								
二年度	3月	研究成果発表会						

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、英語サロン及び海外研修は実施しておりません。

受講生募集状況・選抜状況

募集

GSC 広島では、高等学校との緊密連携を図るために所属する高等学校を通して参加募集を行い、応募した高校生は全員ホップステージのセミナーを受講します。

事業開始のH27年度には130名程度であった応募者数も、現在は300名を超える応募がありました。

選抜

ホップステージ受講後、次の段階であるステップステージ、ジャンプステージへ進むことを希望する受講生において以下の項目にて選抜を行います。

<一次選抜> ホップステージからステップステージへの選抜

科学リテラシー講座、研究者倫理講座、科学講演会のレポート及び課題研究計画の要旨を基に選抜を行います。

令和2年度では、6分野（情報、生物、農業、化学、物理、数学）で計61名のステップステージ受講生を選抜しました。

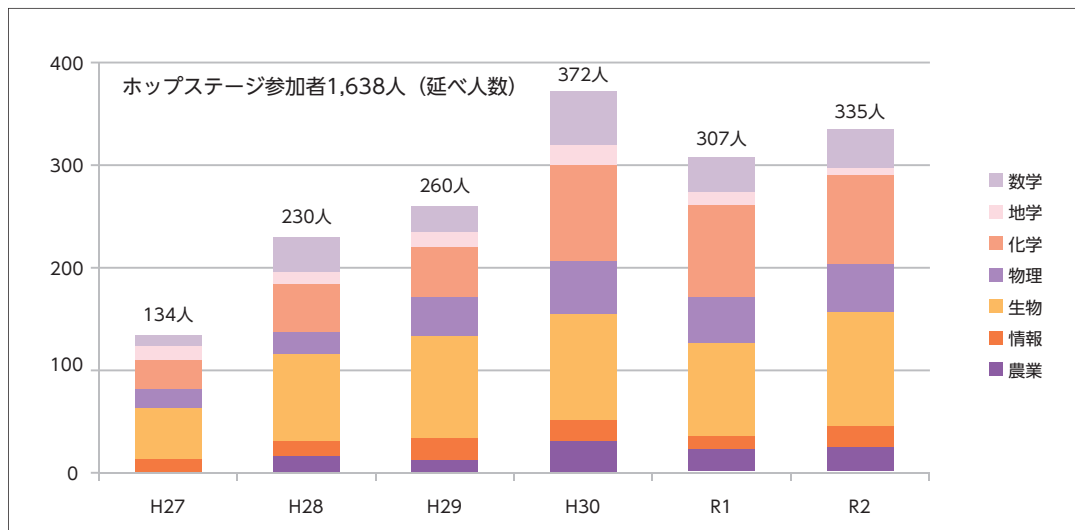
<二次選抜> ステップステージからジャンプステージへの選抜

課題研究計画発表（異分野融合シンポジウム内ポスター発表）及び受講生が作成した研究ノートを基に選抜を行います。

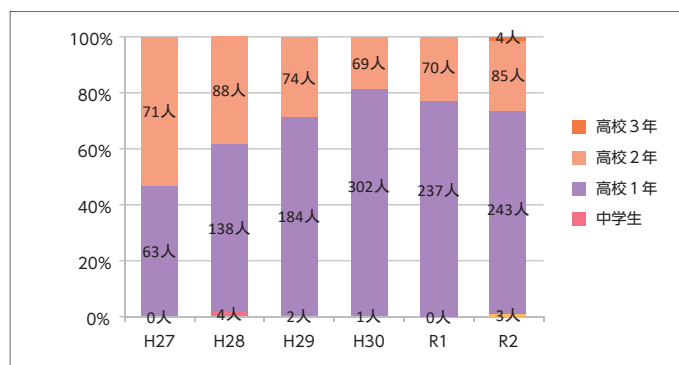
令和2年度では16名のジャンプステージ受講生を選抜しました。

受講生の参加実績

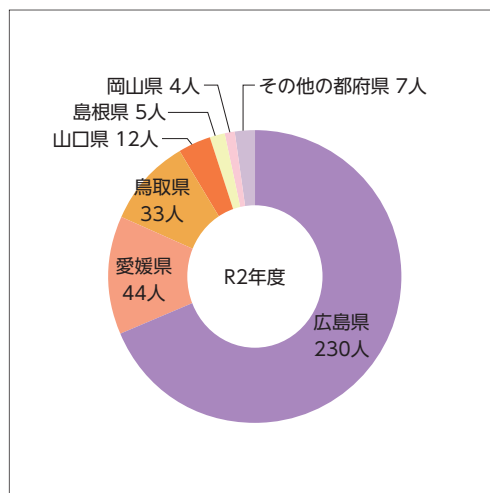
ホップステージ参加者数の推移



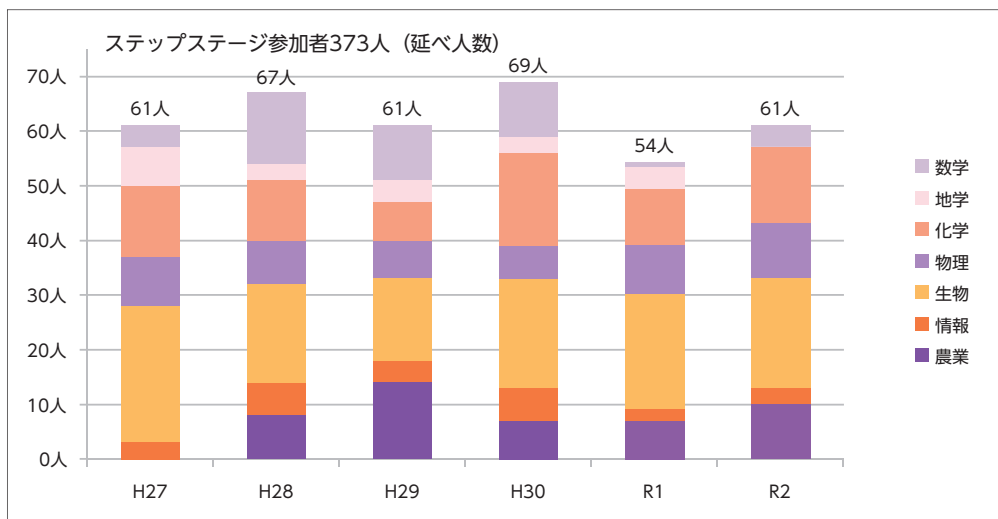
学年



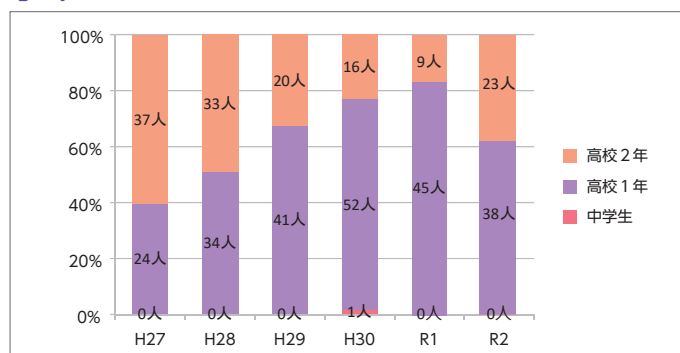
学校別参加人数



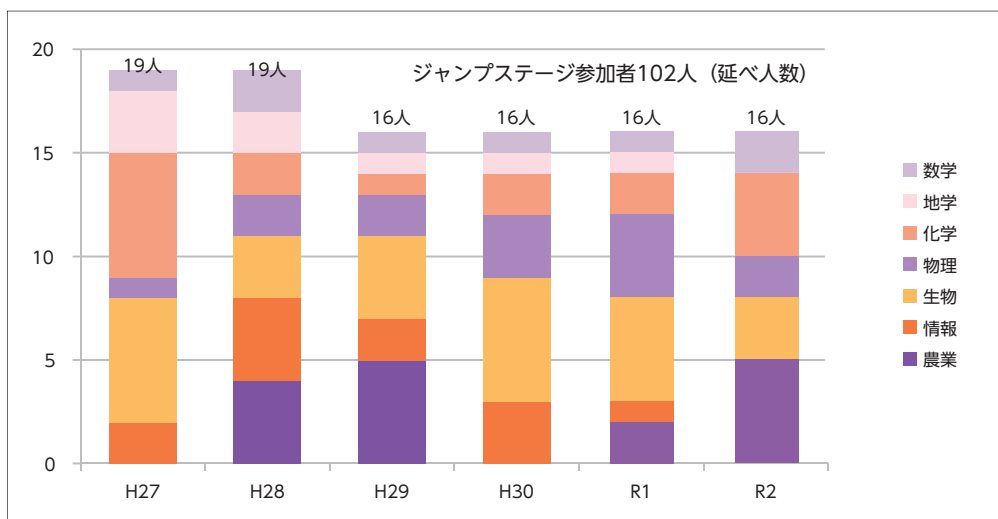
ステップステージ参加者数の推移



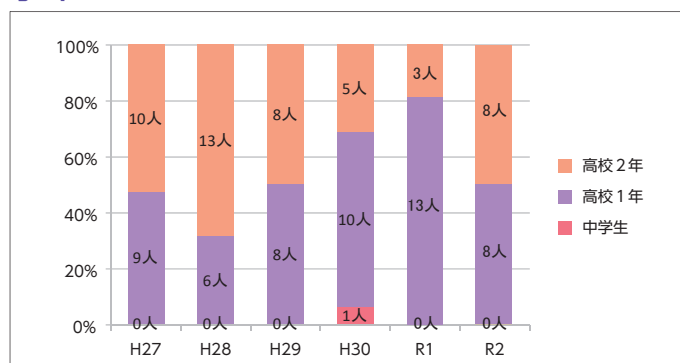
学年



ジャンプステージ参加者数の推移



学年



各ステージ紹介

ホップステージ

ホップステージでは、応募した高校生全員が受講できます。本ステージでは、研究活動を行うにあたっての基礎を学ぶ講座や、科学的な好奇心を刺激する講演を受講できるプログラムを設定としています。

活動内容

～新型コロナウイルス感染症の影響により、全プログラムを録画配信にて実施～

★ 科学リテラシー講座

研究活動を行うにあたって必要な科学の学び方を身につける内容です。

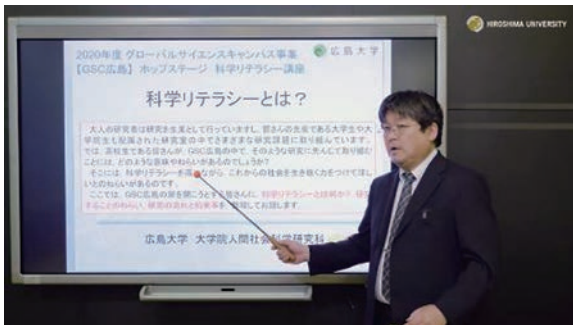
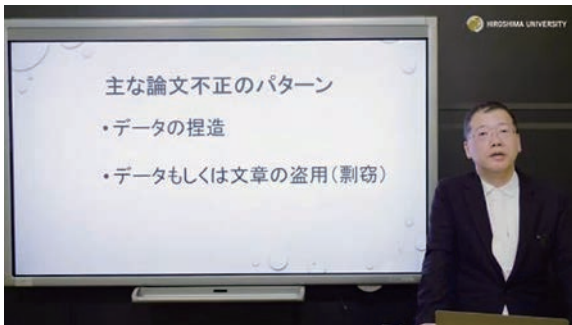
★ 研究倫理講座

過去における研究不正事例を通じて「不正とは何か」、「どうやって防ぐのか」など、研究者として備えるべきルールを学ぶことを目的とし、今後のステージで要求される自分自身の研究やレポート作成、発表等の研究者倫理を学ぶ内容です。

★ 科学講演

他機関で公開されている4分野（数学・物理・化学・生物）の科学講演動画から興味のある動画を1本視聴し、さらに動画の内容に関連する自由図書を読んでレポートを作成しました。

活動実績

	科学リテラシー講座	研究倫理講座
6月10日 (水) から 1か月公開	(パート1) 科学リテラシーとは？ (パート2) 課題の設定と探求の過程 網本 貴一 准教授 (広島大学大学院人間社会科学研究所) 	(パート1) データ捏造問題 (パート2) 剽窃問題 河本 健 特任教授 (広島大学学術・社会連携室ライティングセンター) 

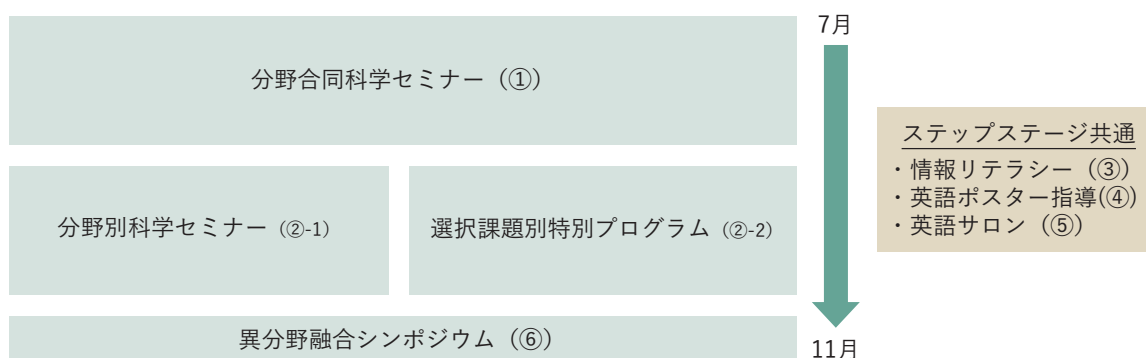
2019年度の様子



ステップステージ

ステップステージでは、受講生は希望する分野の分野別科学セミナーを受講します。また共通のセミナーとして、分野合同科学セミナー・情報リテラシー・英語サロン・英語ポスター指導を準備しています。さらに、漠然とした研究テーマしかもっていない受講生向けに選択課題特別プログラムを用意し、連携企業と合同で設定した研究テーマに関連するセミナーを受講できます。ステップステージの最終段階である異分野融合シンポジウムでは、本ステージで学んだことを踏まえ課題研究計画をポスターで発表します。

本ステージを受講することで、達成目標である「複数の分野にまたがる学際的な領域に対する関心を基盤に、社会課題を意識した研究計画を立案できる」、「研究過程について適切にまとめ、英語ポスターとして発表できる」、「発表に際して分野にとらわれることなく、常に活発な学問的関心を抱き、議論できる」のそれぞれが育成されることを目的としたプログラムを設定しています。



★ ①分野合同科学セミナー（2回程度）

分野合同科学セミナーでは分野を横断した、学際的なセミナー等を通じて科学の幅広い知識や、社会的な課題を学ぶことを目的とし、実施機関、連携大学、連携企業等の専門家が講師として講演を行い、高校での学習内容が実社会でどのように活用されているかを実感することができるセミナーを開催しています。

・連携機関の企業によるセミナー

令和2年度は、マイクロンメモリジャパン合同会社、株式会社ディスコ及び株式会社サタケの連携機関によるセミナーを実施しました。

分野合同科学セミナー（連携企業によるセミナー）

対象：ステップステージ受講生全員

日時：令和2年10月18日（日）、10月25日（日）

マイクロンメモリジャパン合同会社及び株式会社ディスコから講師を招へいし、オンラインによるセミナーを開催しました。マイクロンメモリジャパン合同会社の講師には、半導体メモリや開発プロセス等の知識だけでなくキャリア形成についてもご講演いただきました。また株式会社ディスコからは、精密加工技術に関する講演とともにオンラインによる工場見学を実施し、最先端の技術を間近に感じることのできる機会となりました。株式会社サタケの講師には、(1) お米の安心・安全を支える技術 (2) お米の美味しさを支える技術 (3) お米で健康を支える技術の3つの観点から、最新の技術についてご講演いただきました。

10月18日	－my carrier and work in Micron－わたしのキャリアと現在の仕事	マイクロンメモリジャパン合同会社 島村 陽恵 様
	Semiconductor Memories for the next generation・次世代へつなぐ半導体メモリ	マイクロンメモリジャパン合同会社 山下 和子 様
	最先端のデバイスを形にするディスコの精密加工技術	株式会社ディスコ 塩津 聡 様 門奈 剛毅 様
10月25日	「お米の安心・安全、美味しい、健康を支えるサタケの技術」	株式会社サタケ 水野 英則 様



2020年度の様子

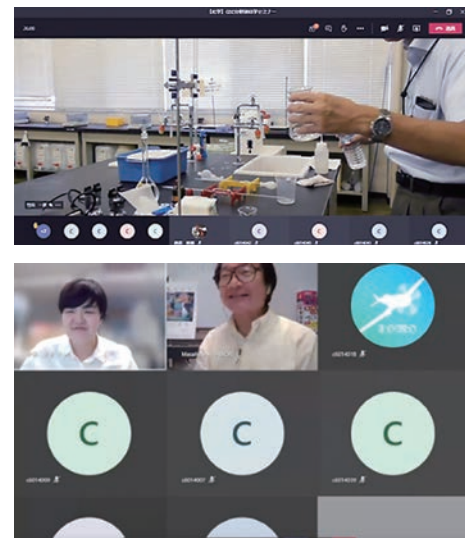
★ ②分野別セミナー

講師は、各課題の指導教員となることが見込まれる研究者を中心とし、実施機関、連携大学、連携企業等の専門家が講師を担当します。

②-1 分野別科学セミナー（3回程度）

選択分野（情報、地学、生物、農業、化学、物理、数学）の専門的なセミナーや実験・実習を通して、受講生自らが設定した課題研究の遂行に必要な基礎知識や専門知識、技能を習得することを目的としています。

令和2年度は、すべてのセミナーをオンラインで開催しました。



2019年度の様子



②-2 選択課題別特別プログラム（大学課題選択型）（3回程度）

当該分野及びその関連分野を含めた専門的なセミナーや実験・実習を通じて、課題に関する基礎知識・専門知識・技能を習得することを目的としています。

令和2年度は、広島市安佐動物公園の研究者によりオンラインにてセミナーを実施しました。

2019年度の様子



令和2年度 分野別セミナーおよび選択課題別特別プログラムテーマ一覧

分野別セミナー

第1回

	題 目	講 師
化学	ミネラルウォーター・水道水の硬度の測定～キレート滴定法による水の硬度測定～	大学院統合生命科学研究科 竹田 一彦 准教授
生物	<生物多様性>の話をしよう	大学院統合生命科学研究科 山田 俊弘 教授
情報	カメラで人の動作を測る	広島市立大学 満上 育久 准教授
数学	作図をめぐる冒険	大学院理学研究科 木村 俊一 教授
農業	植物の機能を制御して新しい食と農を提供する	県立広島大学 荻田信二郎 教授
物理	素粒子標準模型の成り立ちとその課題	大学院先進理工系科学研究科 両角 卓也 准教授

第2回

	題 目	講 師
化学	界面を利用して分子を見てみよう！	大学院統合生命科学研究科 ヴィレヌーヴ 真澄美 教授
生物	里山のたからもの・オオサンショウウオを守ること	総合博物館 清水 則雄 准教授
情報	楽しみながら情報を探すには	広島市立大学 梶山 朋子 准教授
数学	aのx乗の話	大学院先進理工系科学研究科 藤森 祥一 教授
農業	食品のおいしさを科学的に考える	県立広島大学 馬淵 良太 准教授
物理	液体中の原子の運動—コンピューターで再現する、放射光で観察する	大学院先進理工系科学研究科 乾 雅祝 教授 大学院先進理工系科学研究科 宗尻 修治 准教授

第3回

	題 目	講 師
化学	超臨界流体 / 高分子材料の魅力と地球環境との関わりを考える	大学院先進理工系科学研究科 木原 伸一 准教授
生物	海洋生物ウミホタルの発光実験と分子生物学実験の基礎	統合生命科学研究科附属臨海実験所 田川 訓史 准教授 統合生命科学研究科附属臨海実験所 有本 飛鳥 助教 統合生命科学研究科附属臨海実験所 福田 和也 助教
情報	進化的計算による最適化	広島市立大学 串田 淳一 准教授
数学	球面上の符号理論と線形代数	大学院先進理工系科学研究科 奥田 隆幸 講師
農業	農作物の安全性とリスクという考え方	県立広島大学 橋本 温 准教授
物理	半導体の物理と応用：LSI から最先端科学まで	ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 黒木伸一郎 教授

選択課題別特別セミナー

10月25日

	題 目	講 師
	「動物園」が学んでほしい動物のこと	広島市安佐動物公園 畑瀬 淳 様 野田亜矢子 様

ステップステージ共通プログラム

★ ③情報リテラシー

情報リテラシーでは、研究活動のみならず、社会生活の中における情報を適切に取り扱うための基礎知識や技術を修得させるとともに、ネットワーク上のモラルや情報化社会における問題点を検討して問題解決に向けて自ら考える力を身につけることを目的としています。

令和2年度において、受講者は「学術的発表の10ヶ条」「データと測定」の2テーマの動画（オンデマンド）を視聴し、レポートを提出する方法での実施としました。

2019年度の様子



★ ④、⑤英語ポスター発表指導・英語サロン

英語ポスター指導では、ステップステージを通して学んだ内容を基礎とし、ジャンプステージで行いたい研究計画について英語で表現できるよう、英語を母国語とする講師による指導を行います。英語サロンでは、4名から6名程度のグループに広島大学の留学生が加わり、昼食を食べながらコミュニケーションをとることで、英語学習をより身近に感じてもらうことを目的としています。

新型コロナウイルスの影響により、英語サロンは中止としましたが、英語ポスター発表指導については、動画を作成しオンデマンドによる配信を行いました。

2019年度の様子



★ ⑥異分野融合シンポジウム

ステップステージの最終段階とし、2日間で実施します。

例年1日目に国内及び国外からの研究者によるセミナー、2日目にステップステージ生による研究計画のポスター発表を実施しておりますが、令和2年度はオンラインによりポスター発表会を開催し、受講生は積極的に英語での発表にチャレンジしました。また異分野融合セミナーとして、本学及び北海道大学総合博物館教員による講演を実施しました。

11月8日	隕石ってなんだろう？	大学院先進理工系科学研究科 宮原 正明 准教授
	超高压高温実験で探る地球内部の構造と進化過程	大学院先進理工系科学研究科 川添 貴章 准教授
	Biomimicry ～生物模倣、生物から学ぶ・バイオミメティクス研究と博物館	北海道大学 総合博物館 大原 昌宏 教授



ジャンプステージ

ジャンプステージでは、①研究活動を通じて「能力を最大限発揮し挑戦し続ける意欲」、「研究分野に関する高い研究能力と専門技術」、「研究分野の関連する分野の理解力、それらを融合・連携させる応用力、実践力及び新たな課題発見力」を、②各種研究発表を通じて「多様な価値観を持つ他者への情報発信力、英語の意思疎通能力を基盤に研究内容の議論ができる能力」を備えた人材となるよう育成することを目指し、実際に大学等の研究室に入って研究を進めていきます。

本ステージでは受講生、指導教員、TA（学生メンター）、理数教諭（高校メンター）でチームを構成し、研究活動を実施します。

★ 少人数ラボ教育

分野	所属高校	氏名	学年	研究テーマ	受入機関	指導教員
物理	広島学院高等学校	藤縄悠之介	1	Memory Retention of <i>Caenorhabditis elegans</i> by Freezing	大学院統合生命科学研究科	奥村美紗子 助教
物理	広島学院高等学校	尾崎 勇仁	1	Development of a load estimation algorithm by machine learning and its implementation	大学院先進理工系科学研究科	山本 透 教授 木下 拓矢 助教 脇谷 伸 講師
物理	広島学院高等学校	山内恵理哉	1			
物理	広島大学附属高等学校	藤原 美穂	2	Semicircles on the Surface of Running Water	大学院先進理工系科学研究科	内田 龍彦 准教授
化学	AICJ 高等学校	末松 大	1	Producing biodegradable plastic materials never to be microplastics	大学院先進理工系科学研究科	中山 祐正 准教授
情報	広島高等学校	白鷺 風果	1	Identify <i>Tadarida insignis</i> habitats	安佐動物公園	畑瀬 淳さん 獣医師 野田亜矢子
数学	広島大学附属高等学校	亀田あかり	2	One-stroke drawing and the Moebius strip	大学院理学研究科	久保 亮 助教 木村 俊一 教授
生物	近大附属高等学校	藤井 貴裕	1	Antibacterial action of frogs during hibernation	大学院総合科学研究科	浮穴 和義 教授
生物	広島学院高等学校	川上 雄大	1	Embryonic Development of chicken egg under microgravity	大学院統合生命科学研究科	西堀 正英 教授
生物	広島中等教育学校	上森 美里	1	Analysis of Sleeping Problems among High School Students	大学院総合科学研究科	林 光緒 教授
生物	広島高等学校	海野 夢実	1	The morphology of microglia and its function in neurodegenerative disease	大学院教育学研究科	松原 主典 教授
地学	広島学院高等学校	佐藤 輝英	1	Relationship between black hole and magnetic field in jet	宇宙科学センター	植村 誠 准教授
農業	安田女子高等学校	武田 未央	1	Chironomid potential as space food	大学院統合生命科学研究科	河合幸一郎 教授
農業	安田女子高等学校	畝井 潤子	1	Studies on genetic variation, genetic diversity, and river environment due to changes in artificial and natural environments in Kawanina	大学院統合生命科学研究科	河合幸一郎 教授

受講生の研究活動と研究発表

国際学会発表

ATS (Asian Test Symposium) '20

日 程：令和2年11月25日

参加生徒：GSC 受講生7名

場 所：広島大学東広島キャンパス：
オンライン開催

内 容：ポスター発表

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となりましたが、世界各国のエンジニアや研究者との議論を通じた研究交流により、自分たちの研究にフィードバックできる研究発表の機会となりました。

受講生の感想

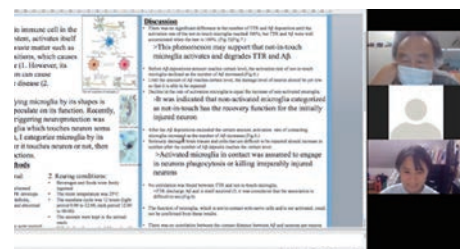
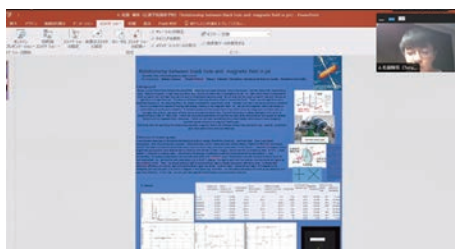
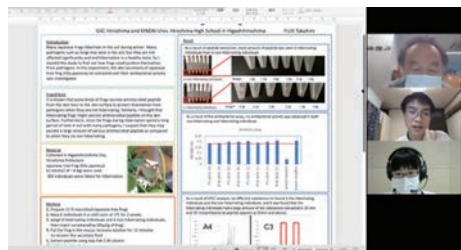
- 事前に相手が聞いてきそうな発表を考え答えを考えていたので、学会での発表ということに対して自信を得ることが少しできた。絶対にこれを聞いてくれるというのは分からないが、自分の説明の中で不足している点や分かりにくい点を自分なりに探って質問を予想する重要性を学んだ。
- 質問に対して的確に返事ができていたかは自信がないが、自分の考えていることをしっかりと伝えることができたと思う。新しい視点からの意見を聞くことで自分の研究の可能性が広がった。これからさらに研究内容をブラッシュアップしていきたい。



研究成果発表

異分野交流ワークショップ

英語による研究発表動画を基に、質疑応答やディスカッションを通じた研究交流を行いました。オンライン開催ではありましたが、大学院生・留学生たちとの意見交換を通じて、自身の研究活動をブラッシュアップすることができました。



日 程：令和2年9月12日(土)
 会 場：オンラインにて
 参加生徒：GSC 受講生14名
 内 容：ポスター発表（「未来博士3分間コンペティション2020」内開催、高校生による1枚で未来を拓く！ポスターセッション）

Group A

発表者氏名	発表タイトル
尾崎 勇仁 (広島学院高等学校) 山内恵理哉 (広島学院高等学校)	Development of a load estimation algorithm by machine learning and its implementation
藤原 美穂 (広島大学附属高等学校)	Semicircles on the Surface of Running Water
亀田あかり (広島大学附属高等学校)	One-stroke drawing and the Moebius strip
佐藤 輝英 (広島学院高等学校)	Relationship between black hole and magnetic field in jet

Group B

発表者氏名	発表タイトル
藤井 貴裕 (近畿大学附属広島高等学校東広島校)	Antibacterial action of frogs during hibernation
川上 雄大 (広島学院高等学校)	Embryonic Development of chicken egg under microgravity
武田 未央 (安田女子高等学校)	Chironomid potential as space food
畝井 潤子 (安田女子高等学校)	Studies on genetic variation, genetic diversity, and river environment due to changes in artificial and natural environments in Kawanina
海野 夢実 (広島県立広島高等学校)	The morphology of microglia and its function in neurodegenerative disease

Group C

発表者氏名	発表タイトル
藤縄悠之介 (広島学院高等学校)	Memory Retention of Caenorhabditis elegans by Freezing
末松 大 (AICJ 高等学校)	Producing biodegradable plastic materials never to be microplastics
白鷺 風果 (広島県立広島高等学校)	Identify Tadarida insignis habitats
上森 美里 (広島市立広島中等教育学校)	Analysis of Sleeping Problems among High School Students

全国受講生研究発表会

各 GSC プログラム実施機関の受講生が、課題研究発表会をオンラインで行いました。GSC 広島から参加した 3 名の受講生のうち 1 名が選抜され、ライブ配信にて口頭発表を行いました。参加した受講生たちにとって、日頃の研究成果を発表できる良い機会となり、またトークセッションを通じて今後の研究活動に新たな気付きを得ることができました。

日 程：令和 2 年 10 月 23 日 (金)～11 月 15 日 (日)
場 所：オンラインにて
参加生徒：GSC 受講生 3 名
内 容：ポスター発表

【審査委員長特別賞及び受講生投票賞受賞】
亀田あかり (広島大学附属高等学校 3 年)
“一筆書きとメビウスの輪”



化学教育研究発表会

日本化学会中国四国支部大会と同時開催された化学教育研究発表会に、GSC 受講生 1 名が参加しました。本大会を通して、高専学生や化学教育に携わる教員方と交流を行いました。これまでの研究成果を十分に発揮できる良い機会となりました。

日 程：令和 2 年 11 月 28 日 (土)～11 月 29 日 (日)
場 所：オンラインにて
参加生徒：GSC 受講生 1 名
内 容：ポスター発表

【研究奨励賞受賞】
末松 大 (AICJ 高等学校 2 年)
“生分解性プラスチックのポリ (3-ヒドロキシ酪酸) をセルロースナノファイバーで補強した複合素材の開発と評価”



HISS22nd (The 22nd IEEE Hiroshima Section Student Symposium)

電気電子技術に関する国際的な学術組織である IEEE 広島支部が企画や運営を中国 5 県の大学生が主体となって行う「学生の学生による社会のためのシンポジウム」に参加し、研究発表を行いました。

日 程：令和 2 年 11 月 28 日 (土)～11 月 29 日 (日)
会 場：オンラインにて
参加生徒：GSC 受講生 2 名
内 容：ポスター発表

【HISS 優秀高校生プレゼンテーション賞受賞】
尾崎 勇仁 (広島学院高等学校 2 年)
山内恵理哉 (広島学院高等学校 2 年)
“ランダムフォレストに基づく音響データを用いた負荷推定方法の一考察”



お問い合わせ

GSC広島事務局

広島大学



高大接続・入学センター

〒739-8511 東広島市鏡山1丁目3番2号

TEL : 082-424-4829 FAX : 082-424-6710

E-mail : nyusi-kodai@office.hiroshima-u.ac.jp

HP : <https://www.hiroshima-u.ac.jp/gsc>

本報告書は、国立大学法人広島大学が国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「グローバルサイエンスキャンパス」事業にて平成31年度採択された、「持続可能な発展を導く科学技術人材育成コンソーシアム GSC 広島～世界を舞台とした教育プログラムと地域の産学官連携による人材育成～」における今年度の成果を取りまとめたものです。

2021年3月発行